

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム  
2024年度第6回常任委員会 議事録

1. 日時：2025年1月24日（金） 14:00～16:02
2. 場所：東京都千代田区麴町3-6-5麴町GN安田ビル4階JPF事務局会議室（Web会議併用）
3. 出席者の確認  
常任委員総数10名のうち、常任委員会の成立要件である3分の2以上の出席を満たしている旨の報告がなされ、本会の成立を確認した。

常任委員

NGOユニット：上島安裕（共同代表理事）  
NGOユニット：野際紗綾子  
経 済 界：井川紀道  
経 済 界：エディ操（オンライン）  
経 済 界：金原主幸  
学識経験者：桑名恵  
学識経験者：堀場明子（オンライン）  
（14:30まで出席。退席後は事務局長へ委任）  
外 務 省：岩上憲三  
共同代表理事：秋元義孝  
事 務 局 長：亀田和明

オブザーバー

理 事：忍足謙朗（オンライン）  
理 事：古城佳子（オンライン）  
監 事：田中英隆（オンライン）  
監 事：吉武一（オンライン）  
NGOユニット（GNJP）：河合裕司（オンライン）  
NGOユニット（PW）：山本理夏（オンライン）  
外 務 省：柳沼葉月

議長は、ジャパン・プラットフォーム常任委員会規約第3条3項に基づき、事務局長が議長を務めることを確認した。

4. 審議事項  
(1) 第一号議案：2024年度第5回常任委員会議事録（案）の承認  
審議の結果、全会一致で承認した。
5. 協議事項  
(1) プログラム戦略会議からの提案  
議長より、次回常任委員会において、政府資金（2025年度当初）の予算配分を決定することを目的とし、加盟NGOユニット幹事会からの提案に対して、常任委員の意見聴取を

行うことの説明がなされた。協議に先立ち、事務局より、各ワーキンググループ（WG）にて開催された状況共有会議の概要、審査の迅速化の現状報告、JPFがこれまでに実施した複数年度プログラム導入の背景等について説明がなされた。

その後、上島共同代表理事から、2025年1月7日に開催されたプログラム戦略会議での議論をふまえたNGOユニット幹事会からの提案について報告がなされ、協議が行われた。

NGOユニット幹事会からの提案は以下の通り。

【NGOユニット幹事会からの提案】

- ・ 緊急準備金及び迅速化について
- ・ 当初予算プログラム（単年及び複数年）、補正予算と追加拠出について
- ・ チャレンジ枠に関して
- ・ 事業の選択と集中について

協議の結果、本委員会での意見を参考に、引き続きプログラム戦略会議等において、議論を継続していくこととした。

(2) その他

〈資金拡大についての考え方〉

野際委員から、2025年度資金拡大に向けた計画案についての説明がなされ、資金獲得に向けて全ワーキンググループ及びJPFの活動についての協議がなされた。

協議の結果、外務省内のJPF認知度を上げること、その具体的な方法を策定していくこととした。

〈事業審査委員会における不服申し立てについて〉

事務局から、事業実施・助成ガイドラインにおける不服の申し出制度について説明がなされ、協議が行われた。

協議の結果、聴取した意見を参考に、引き続き検討していくこととした。

6. 報告事項

(1) 海外ワーキンググループからの報告（NGO発表）（レバノン緊急人道支援）

パレスチナ子どものキャンペーンから「レバノン緊急人道支援」に関する報告がなされた。現地で支援が必要な人々へ、必要な支援を迅速に行うため、コミュニティに根差した支援を継続していることを報告した。レバノンにおいてJPF及び日本の支援は不可欠であると提言があった。

(2) 東日本大震災被災者支援の方向性について

事務局から、東日本プログラム終了について説明がなされ、過去の理事会の決議に基づきその残金を運営費へ繰り入れることおよび現在実施中の全ての事業終了後、これまでの活動内容を総括し、報告会を開催することを報告した。

(3) 令和6年度補正予算コンセプトノート審査の実施

事務局より、令和6年度補正予算を財源とする案件に係るコンセプトノート方式による審査について報告がなされた。

(4) 事業資金執行状況報告

2024年度4月から12月末までの財源ごとの執行状況について報告した。国内外の事業活動

総括及び事業資金の概況は以下の通り。

【政府当初予算】

- ◆ 執行率100%。
- ◆ 予定通り49事業が申請され、うち48事業が政府承認済み。

【緊急準備金：政府資金】

- ◆ 6月にガザへの追加支援として3億円の追加を決定。
- ◆ 9月バングラデシュへの水害被災者支援として3億円のプログラムを立ち上げ。
- ◆ 9月に東南アジアを襲った台風（11号ヤギ）被災者支援に1.85億円で支援開始。
- ◆ 12月にレバノン対応において2億円でプログラム立ち上げ、また、ガザに追加で1億円の増額決定。
- ◆ 1月にモザンビーク北部へのサイクロン・チド被災者支援として6,000万円で支援開始。
- ◆ 緊急準備金残高2.54億円。

【緊急準備金：民間資金】

- ◆ 新規発災のプログラム立ち上げに利用可能な民間緊急準備金残高：1.14億円。
- ◆ 昨年同時期の残額は7,000万円。
- ◆ 東南アジア台風に14,921,109円助成。

【能登半島地震被災者支援】

- ◆ 執行率82.2%。
- ◆ 事務局運営費を除いた助成可能寄付金額総額は11.36億円。
- ◆ 総額9.34億円の事業申請があり、これまでに15団体30事業に助成。
- ◆ 残高は2.02億円。
- ◆ 9月の能登地方豪雨についても合わせて支援を開始し、プログラム期間を延長して対応。

【その他国内事業】

<東日本大震災被災者支援（福島支援）>

- ◆ 今後の事業申請はなく、東日本プログラムは終了。
- ◆ 執行率81.6%

<休眠預金事業>

- ◆ 7団体10事業に助成。ほぼ計画通りの執行状況となっている。
- ◆ 執行率95.4%。

【緊急初動調査】

- ◆ 発災時等対応基金残額 3.5億円。
- ◆ これまでに以下の6事業へ緊急初動調査・物資配布を実施。
  - PW ケニア共和国の洪水被災地域における調査、物資配付  
7,000,000円（5月）
  - PW バングラデシュのサイクロン被災地域における調査、物資・食料配付  
7,000,000円（6月）
  - GNJP バングラデシュサイクロンRemal被災状況調査及び緊急人道支援  
6,996,678円（6月）
  - GNJP バングラデシュ国フェニ県における洪水被災状況調査及び緊急人道支援  
6,986,997円（8月）
  - AAR ミャンマー・カレン州洪水被災者に対する支援事業の案件形成調査および物

資配付  
6,813,338円（9月）  
PW モザンビーク北部サイクロン・チド被災地におけるニーズ調査及び緊急支援  
10,000,000円（12月）

【事務局運営費の実績状況】2024年4月～12月末

- ◆ 民間寄付からの運営費繰入額は、対予算比 51.06%。
- ◆ このペースでは年度末に約 3600 万円の予算未達となる。

(5) 民間収入報告及び広報の取り組みについて

事務局より民間寄付及び会費の実績、主な事業特定寄付実績、賛助会員への入退会企業、及び複数のイベント等について報告がなされた。

【民間寄付・会費実績/2024年4月～1月】（）内は前年同期比

正会員	1,100千円(112.2%)
賛助会員	20,475千円(143.9%)
一般寄付	17,882千円(128.5%)
緊急災害支援基金	19,098千円(133.0%)
事業特定寄付	176,401千円(57.2%)
実績合計	235,583千円(66.9%)

【UNIQLOヒートテック配布イベント】

2024年12月15日輪島市マリンタウンにて開催

事務局よりUNIQLOヒートテック配布イベントの様子がUNIQLO店舗内で放映、チャリティーTシャツの販売店舗が拡大されたことの説明がなされた。

【企業意見交換会】

2024年12月3日JPF麹町事務所にて開催

企業とNGOの連携強化のため、企業を対象に意見交換会を開催した。事務局より、能登半島地震の連携事例を紹介し、平時から連携を継続していたことの説明がなされた。次回は、2月開催予定であることを報告した。

【能登地震1年シンポジウム】

2024年12月20日オンラインにて開催

能登地震に対する支援者への御礼と活動報告、今後の課題を検討するシンポジウムを開催した。

【JPFニュースについて】

2025年1月に「JPFニュース」の配信が開始した。全部署でコンテンツを作成し、毎月配信を行うことを報告した。

【決済手段の拡大】

決済手段にPayPayが追加されたことを報告した。

(6) 財務状況の報告（書面報告）

2024年12月末時点の財務状況、並びに収支について書面で報告した。

7. 次回以降の常任委員会開催日時と会場について

2024年度第7回常任委員会：2025年3月14日（金）麹町GN安田ビル4F会議室